

2013年(平成25)10月

カルメル
靈性センターニュース



+
nada te
nada te
todo je
dios no
la pas
todo f
quien
nada te falta
solo Dios basta
teresa de Jesus

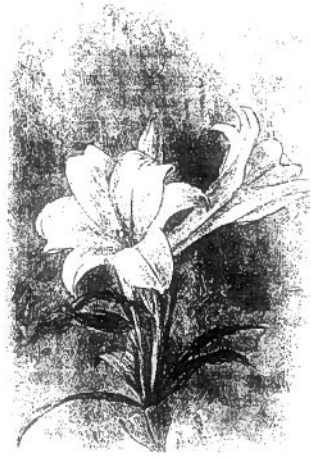
2013年10月

291号

目次

心の泉	1
カルメル会の企画案内	17
諸所の企画案内	31
年間購読(郵送)のご案内	40
編集後記	41

心の泉





第二巻

第一章 内的なまじわり

4 キリストの傷あとのなかに

ここはあなたが休むところではないのに、なぜ、あたりを見まわすのか？あなたの住まいは天にあるはずである(二コリント 5・2 参照)。立ち止まらずに急ぎ足で、この世のすべてを見ていかなければならない。何もかもが過ぎ去っていく、あなた自身も同様である。あなたは、この世の奴隷となって滅びないように、この世のことに執着しないように気をつけなさい。あなたの考えをつねにいと高きお方に上げ、あなたの祈りをたえずキリストに向けなさい。もしあなたが、すぐれたことや天上のことを観想することができないとしても、キリストのご受難に心を向け、その聖なる傷のなかに喜んで住むようにしなさい。『もしあなたが敬虔にキリストの聖なる傷と尊い聖痕とに避難するならば、患難の時に大きな慰めを得て、他人に軽んじられることを気にせず、むしろ他人からの悪口を喜んで忍ぶことができるであろう。

5 キリストの忍耐にならう

キリストもこの世にあっては人々に軽蔑され、苦難のさなか、知人や友人から見捨てられて、いちばん誰かにそばにいてほしい時に、ただ一人、取り残された。キリストは苦しみと侮辱とを受けようと望まれた。それなのにあなたは、ささいなことで隣人に不満を言おうとするのか？キリストには反対者と悪口を言う人がいた。それなのにあなたは、皆から恩恵と友情のしるしを受けようとするのか？何の苦しみにもあわないならば、あなたの忍耐はどんな報いを受けるであろう？反対にあうことをことごとく嫌がるなら、どうしてキリストの友人になれるであろう？いつの日にかキリストのみ国に入りたいと思うなら、キリストと共に、キリストのために忍耐しなさい。

信仰年に

神と親しく生きるために - 10 -



祈りにおいて神のうちに浸り、
神に触れる・・・
一体　そこで
何が起きているのでしょうか。
感知できる領域では
「何も特別に・・・」
と言わねばなりません。
実際には
何かが起きているのですが。

尊者マリー・エウジェンヌ神父は次のように言っています。*

アビラのテレサは念祷を神との親しい交わりと定義しています。
信仰によってわたしたちは確かに念祷の中で豊かに養われます。
神は常に愛を与え続ける方です。水に手を入れるなら、そこから引き出すとき手は必ずぬれています。あるいは、火に手を入れて火傷をしないことはありません。
同じように信仰によって神のうちに留まるとき、神の無限の豊かさである「神のいのち」を必ず汲みとるのです。

信仰年も終わりに近づきました。この一年それぞれにできる努力してきました・・・その道程を平凡な日常生活の中でさらに歩み続けることができますように。

伊従 信子 (いより のぶこ)
ノートルダム・ド・ヴィ

* 『いのりの道を行く』 聖母文庫、聖母の騎士社

人を赦す

くのり
九里 彰

人を赦さない人は、キリスト者であると言えるのだろうか。毎日、私たちはさまざまなミスや過ちを犯してしまう。感情的になり、知らずに知らずに内に人を傷つけている。その意味では、人を赦すどころではない。私たちは皆、絶えず人から赦してもらわなければならない哀れな罪人に過ぎない。

しかし、人を赦さなくてはならない時もある。長い人生において、だれにでも一度や二度、「あの人は赦せない」という体験を持ったことがあるのではないだろうか。そのような時、人を赦さない頑なな自分がある。

大分前に、一人の中年の信者（家庭の主婦）から相談を受けたことがある。よく私のクラスに出席された方で、教会の活動にも熱心に参加しておられた。相談は、他の神父のクラスに参加していたところ、そこでその神父からみんなの前で泥棒呼ばわりされたとのことである。お金がなくなったようなのであるが、その嫌疑が彼女に及んだということらしい。きっかけとして二時間ほど私の前で憤りながら、その神父を非難し続けた。私は口をはさむこともできない。

祈りの時間が来たので、私は話を終わりにして、出ようとしたが、なおも非難をやめない。外の通路でも彼女は話し続けた。私は、最後に一言、言わなければならないと思い、「それでも、イエスさまは、人を赦せとおっしゃっていますよ」と言った。

私が彼女の苦しみや悲しみに十分寄り添っていなかったのかもしれない。火に油を注ぐ形となり、彼女は地団太を踏んで、教会中に響き渡るような大声で、「ゼッタイニ エルシマセーン！」と叫んだ。そうして、後も振り返らず、ぷんぷんと怒って帰って行った。以後、彼女の姿を見たことがない。

あなたがたも聞いている通り、『隣人を愛し、敵を憎め』と命じられている。しかし、私は言うておく。敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。（マタ 5・43）

キリストの愛には、敵も味方もない。敵味方の区別ができること自体が、キリストの愛から離れていることの証しではないだろうか。

十字架の聖ヨハネ こぼれ話（73）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

別の説教者

時々、ある人々にはとても自然であると思われるのに、他の人々にはそうでもないと思われる妙なことが起こります。

男子の跣足カルメル会は、1586年、コルドバに修道院を創立しました。十字架の聖ヨハネは、その時、アンダルシア地区の管区長代理でした。

ある日、サン・ロケの修道院——その修道院はそういう名前をつけられていました——でのことです。聖人は、被昇天のマルティン修道士と一緒にこの修道院を訪問しました。この忠実なお供の修道士が、出来事を物語ってくれました。その共同体の神父たちの一人が、説教をしました。聖人は彼の語ることに耳を傾けていました。この説教者は、「神に自分たちをゆだねるために、自分たちに対してなされるどんな施しに対しても、たとえそれが小さなオリーブの壺であろうとも、修道院の中で感謝の心を持つべきであり、それについて食堂で言うべきである」と話し始めました。

くだんの聖人には、単なる「説教のための説教」とは思われませんでした。次の日の夜、聖人はみな注意を喚起し、次のように言いました。

「それは、『説教のための説教』ではなく、神の愛に燃えた言葉でした。それらの言葉は、私たちの主が送ってくださったので、彼の口をついて出てきたのでしょう」。



「使徒たちが、『わたしどもの信仰を増してください』と言った」(ルカ 17, 5)。

実は、今日の聖書朗読箇所の前には、「もし兄弟が罪を犯したら、戒めなさい。そして、悔い改めれば、赦しでやりなさい。一日に七回あなたに対して罪を犯しても、『悔い改めます』と言ってあなたのところに来るなら、赦してやりなさい」とのイエスの勧告があったのです。そして、今日の朗読箇所の最後は、「あなたがたも同じことだ。自分に命じられたことをみな果たしたら、『わたしどもは取るに足りない僕です。しなければならぬことをしただけです』と言いなさい」とのイエスのもう一つの勧告で締めくくられています。こう見ますと、「赦してやりなさい」とのイエスの勧告、実にわたしたちには実行が困難な諭しがあり、そして、このような勧告を実行するには、信仰が前提とされ、実行できたとしても、それは、わたしたちが誇ることができる努力の結果によってではなく、神の憐れみによる恵みの力によってのみ実現できたと認める謙虚さが必要だ、このような筋が軸になっていると分かります。

さて、今日の福音朗読そのものに戻しましょう。「使徒たちが、『わたしどもの信仰を増してください』と言った」とありますが、一見唐突とも見える、使徒たちの言葉も、この文脈内では、信仰とは、「神の存在」とか「永遠の生命」、「天国」を信じる、このような一般論的な意味での信仰とは異なった次元を指しているようです。わたしたちが日常の生活の中で確認し、体験できる次元での「赦してやりなさい」とのイエスのお言葉に信じこみ、信頼し、人間の知恵からの展望にではなく、お言葉に信頼して判断し、行動することに具現化される、イエスへの、そのお言葉へ信仰、信頼、これが問題とされているのではないのでしょうか。自分たちの経験やプライドの声、あるいは社会一般の常識的行動規範よりも、イエスのお言葉に信じ込み、そのお言葉の上に自分の日常生活、隣人とのかかわり、社会生活を築く決意、これが、信仰と言われているのではないのでしょうか。「もしあなた方からし種一粒ほどの信仰があれば」。ほんの少しでも、イエスのお言葉の上に信頼し、この「赦す」決意があれば、現実の世界、利害と利害、権利と権利がいがみ合って、ますます人間が、住みにくくなる世界は変えられてゆくのでしょうか。そして、この決断は、信仰から、人間の能力によることを超えて、神の恵みとして与えられる信仰の展望の中でのみ生まれ出るものです。 ルカ渡辺幹夫

年 間 第 28 主 日 (C) (ルカ 17: 11—19)

“ この外国人のほかにも、神を賛美するために戻って来た者はいないのか ”

今日の福音はイエスが癒された 10 人の重い皮膚病を患っている人たちの物語です。その中の 9 人はユダヤ人で 1 人はサマリア人でした。この 10 人は、十字架上の死を目前にエルサレムに向かっておられるイエスに出会います。ご自身の大変な状況を顧みず示されるイエスの深い憐れみと優しさに感動します。イエスはらいの人のような社会から疎外されている人々に手を差し伸べて下さる方です。このようなイエスを前にして、私たちはいただいている恩恵を十分に評価し心から感謝する思いに欠けている存在であることに気がきます。

福音書の中で、この個所ほど人間の神にたいする忘恩を強調しているところはありません。この 10 人は祭司のところに行く途中、徐々に癒されていきました。その中の一人が癒されたと知った瞬間、イエスが癒して下さいと確信し、イエスのところに戻ってきます。彼はイエスの前にひれ伏し、深い尊敬と敬意、感謝を表しました。この人はサマリア人でユダヤの慣例に組み込まない人でした。イエスは、癒された他の 9 人が感謝しに戻ってこないことに驚かれます。その 9 人はイエスの同胞であるユダヤ人でしたから。“清くされたのは 10 人ではなかったか。ほかの 9 人はどこにいるのか。この外国人のほかにも、神を賛美するために戻って来た者はいないのか。” 異教徒、神から遠く離れていると思われているこの人こそ、人生において神が深く関わっていて下さることを知っている人でした。感謝するために戻って来たその人は、このような行為を最もしない人だと思われている人でした。イエスはその人に仰います。“行きなさい。あなたの信仰があなたを救った、” と。

今日の神のみことばは、私たちみんなが日々神のうちに、神を通していただき続けている恵みとよい贈り物を心から感謝するよう促しています。神は、私たちのこの世での生活を見守ってくださるばかりか、喜びと幸せに満ちた来世も用意して下さいます。私たちは、ともすると神が極当たり前のようになさっている様々のよいことを十分感謝しないです。私たちの生活に必要なことは、よいものを見わけ、神と神の道具として遣わされた全ての人々に、心から感謝することです。ナアマンやこのサマリア人、そして聖パウロのように、神が与えて下さった贈り物を認識し、感謝の思いを表明しなければなりません。かつて恐ろしい病気とされていた、らいは地上のほとんどの場所から姿を消しました。しかしエイズのように、いろいろな意味で社会に受け入れられない人々の持っている病があります。イエスに従うキリスト者として私たちは、人種、文化、宗教、またその他の身体的、精神的障害などの理由で“皆と違っている” という思いを負わされた人々の尊厳と権利をしっかり守り、促進していかなければなりません。神にとって、一人のらいも、一人の疎外者も決して存在しえないことを理解しなければなりません。全ての人々は家族であり、同じ父を有し、その父の子どもであり、お互いに兄弟姉妹同志なのです。

(Sr. Paulina)

「あのやもめは、うるさくてかなわないから、彼女のために裁判をしてやろう。さもないと、ひっきりなしにやってきて、わたしをさんざんな目に遭わすにちがいない」(路 18, 5)。

主イエスは、この大変自己中心的な発想の言葉を、たとえ話の中で、神を恐れな
い、また、人を人とも思わない不正な裁判官の唇に言わせています。それは、まし
てや、神である御父は、憐れみ深く、苦しむ人たちに近くにおられる方ですから、
その人たちのために、終末論的神の国の到来を早め、苦しみから解放し、小さい者
たちを苦しめている者たちには、正しい裁きを実行してくださる、延期されること
はありえない、この真理を悟らせ、信頼に導くためでした。裁きのためにと
言うよりは救いをもたらす終末論的裁きを、神に早めさせるほどのものは、い
ったい何でしょうか。それは、「信仰」、わたしたち人間の神の約束への信仰、
信頼なのです。

ここで、少し脇道をして、させてください。それは、今日十五日にその祝日を
記念する、アビラの聖テレジアのことです。聖女は、苦しむ多くの人々の願
いを受け止め、教会のために、宣教のために、労苦しつつ働く司祭や神学
者たちのために、また、新しい修道院の創立を初めとして、国と国の一
触即発の状況、南米のインディオスの人権擁護など困難な、成功が
多くの人には不可能と見えたことのために、神の前に取り次ぎなが
ら祈りに、テレジアは堅忍しています。テレジアのあきらめない
取り成しの持続する態度は、二つの姿となって現れています。一つは、
今日の福音の婦人のように、イエスを「うるさがらせる」までに、
熱烈に、そして持続して祈ることで、聖女は、その著書の中で、「
人々が大変な数で滅びていくのを知って悲しみ、どうか救ってや
ってくださるようにと主に切願してやみません」(創立史 5, 5)と
日本語翻訳ではなっていますが、この最後の箇所は、スペイン語の
直訳では、「うるさがらせる」となる単語を使用しています。テレ
ジアは、明記はしていませんが、確実に今日の福音を踏まえて書
いています。そして、もう一つの態度は、神の愛への盲目的とま
でも言える、信頼、委託です。隣人たちのために取り次ぐ救いの
恵みは、現時点で、人間であるわたしたちが期待している形では
ないとしても、わたしたちが確認できないとしても、人間の計らい、
思惑を超越する神の計画と時間の中で、人間の期待を凌駕する
形で、神が計画する時に、必ず成就される、と確信しています。
「しかし、人の子が来るとき、はたして地上に信仰を見いだす
だろうか」。このお言葉は、反語的な形式で、そのような信仰に
生きる人を必ず見つける、とのイエスの約束を印象付ける表現
なのです。 ルカ 渡辺幹夫

年間第 30 主日 (C)

みことばのひびき

「だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。」 (ルカ 18:9-14)

祈りは、キリスト教の礼拝のなかで大変大切な場所をしめています。本日の典礼では祈りのある側面と生活への適応について話しています。この福音は神が罪びとや謙そんな人のことばを特にお聞きになることを語っています。たびたび私たちは何故神が人間の扱いに不公平なのかと思います。本日の福音でイエスはファリサイ派の人と徴税人について語り、神に対して義となる方法を示しています。この人たちは二人とも祈るために特別の場所に行きました。

ファリサイ派の人と徴税人のこのたとえ話は普通、出だしの文に解釈の手がかりをおきます。自分自身の正しさを確信し、他の人を軽べつする人々に宛てられています。たとえ話そのものはファリサイ派の人と徴税人を用いていますが、メッセージはファリサイ派の人と徴税人のどちらにも特に反対しているわけではありません。このたとえ話を読むほとんどの人は、ファリサイ派の人を高慢で、独善的で、利己的な人であると批判し、徴税人を謙そんな人として誉めると思います。実際は、ファリサイ派の人は独善的なのではなく、よいファリサイ派の人がすることをしているのです。一方、徴税人はその地方の敵の協力者でした。ファリサイ派の人の過ちは自分の宗教的、個人的な成功を自分自身に帰していることです。祈っているその言葉は自分に向けられているように思えます。徴税人は自分が罪びとであることを認め、単純に憐れみを求めています。赦しと正しいと認められることは選ばれた人に与えられる神からの賜ものです。私たちに求められるものは徴税人の従順であり、神の憐れみを待ちのぞむ姿です。

本日の福音で、ルカは謙虚さについて語っています。イエスはへりくだる者は高められると述べられます。マタイの福音には、小さな子どものようにへりくだる者は誰でも神の国で最も偉大であるというイエスの言葉があります。ファリサイ派の人と徴税人のたとえ話の中で、ファリサイ派の人が自分を正しいと考え、そして徴税人をとがめたことを読みました。ペトロの手紙は、「神は高慢な者を敵とし、謙遜な者には恵みをお与えになる」から、私たちが皆お互いの接し方において謙そんを身につけなければならないと語っています。ですから、私たちは神がふさわしいときに私たちを高めてくださるように、神の偉大なみ手のもとにへりくだらなければなりません。このように、イエスがへりくだられたようにキリスト者として私たちもへりくだるようによびかされています。イエスは謙そんの行いを通して私たち一人ひとりに大きな愛を示されました。

一人の無名の兵士の小さな祈りの詩でこの文を終わりたいと思います。

私は功績をたてるために神に力を求めました、しかし、従うことを学ぶために

弱くさせられました。 もっと大きなことをするために助けを求めました、

しかし、もっとよいことをするために病を与えられました。

幸福になるために富みを求めました、しかし、賢くなるために貧しさを

与えられました。 人生を楽しむために全てのものを求めました、

しかし、全てを楽しむために生命を与えられました。

求めたものは何も得ませんでした、しかし、望んでいた全てを得ました。

私の祈りは答えられました。 私は最も祝福された人です。

(Sr. Paulina)

ただぼんやりと無為でありたい時、自分自身が静かな独りでありたい時、また具体的なことは不明のままに行き詰まり感を持ったりするような時に、私はよく料理の本、なかでもおべんとうの本を手にとります。

レシピなのですが、作るためではなく絵本をみるように眺めるためにです。

本屋さんに行けば、料理の本は種類も数もその多さは驚くほどで、色彩もデザインも豊富で趣向に富み、華やかさに目を奪われます。みるからに美味しそうで楽しそうで、思わずよし、今晚はこれだと心ときめくものが満載です。

しかし、一冊の本から実際にそれらしきものが食卓にのぼるのは、せいぜい一つか二つがいいところです。やはり私にとっては、料理の本は作るというよりは眺めるものなのです。

野菜や卵や魚やソーセージ等々が工夫され料理されて、趣のあるいろいろな形のおべんとう箱に、絶妙な配置で並んでいるのを眺めていると、ゆったりと全身がほぐれて安らぎます。好みをいえば、素朴な地道な質実な雰囲気のおべんとうがいいです。この安らぎ、心地よさは、食欲に連動した美味しそうではなく、もっと精神的な内的な何かなのです。

ぼんやりと安らぐために眺めるのなら、美しい自然風景の写真や花の絵など他にもたくさんあるのに、なぜよりによっておべんとうなのか、食べものなのか、自分でも奇異の感は否めません。

そうやって、ぼんやりと静かに頁を繰りあれこれと眺めていると、いつしか扉は閉じられ注意が定まってくるようなのです。考え事は沈められ、想念は潜められ、内へ内へと引き寄せられていくのです。

そして、ついには風かおるガリラヤの丘に坐っていたりします。親友と言っていい長血を患う女やサマリヤの女と、しっとりと会うのです。そこは私の主イエズスのただなかです。

「食べる」とは、とを考えます。

当り前のことですが生きるための必須です。しかしそれは生物的、身体的の生命維持にとどまらず、もっと本質的な人間のありかたにまで届ききれない深さをもって関わっているのではないかと思っています。

私たちは人間関係の中で人と共にあろうとして、とにかく何かにつけて「食べる」のです。

一度食事でもいかがですか、お茶しない？、一席設けます、お昼をご一緒しましょう、などなど、喜びの宴、別れの盃、料亭の密談、・・・最後の晚餐。

「食べる」とは確かに私たちの何の変哲もない日常茶飯でありながら、同時に人間というものの究極、極限でもあると云えないでしょうか。

例えば私たちは限りなさを表現したい時に「食べる」ことを持ち出したりしないでしょうか。食べてしまいたいほど可愛いとか。食べてしまいたいほど可愛いとは、どの位をいうのでしょうか。果たして何を意味しているのでしょうか。更に別の向きから極めれば、「鬼子母神」の話とか。また、83年に芥川賞を受賞した唐十郎「佐川君からの手紙」。それからもはや古典とも云えそうな武田泰淳「ひかりごけ」。いずれも私たち人間のもつ深い深い悲慘と尊厳です。退っ引きならぬ状況、事情に落ちての極限の「食べる」です。

つい先ごろ、書評に惹かれて文芸誌に載っている若い作家の「ある日の結婚」という小説を読みました。相手を食べたい、相手に自分を食べさせたいという相互の究極の欲求を、どうしても放しきれない男女のカップルが、少しずつしかしとめどなく相手のからだを食べて食べ合って、互いにぎざぎざの穴だらけになってゆき、その穴に互いに組み入って合体して徐々にひとつとなっていくシュールな物語です。グロテスクな感じはなく、どうしようもなく哀しく清らかで、どうしようもなく淋しく幸せで、心の内に深く感応するものがあり、私は涙をこぼしながら読みました。

「食べる」は、なぜ私の最深部に劇しく触れるのでしょうか。

おべんとうの本はなぜ潜心を促し、私の主、私の神へと導いて、ゆりかごのような安らぎをもたらすのでしょうか。

日曜日のミサで神父さまは「キリストは、かみくだかれて、すりつぶされて無となって食べられるものとなって私の内にきてくださるのです」と10回も20回も100万回も、命をかけて説かれます。私はその言葉を10回も20回も100万回も、命をかけて聴き入れるので、もはや肉体化しているのではと思っています。

キリストは「わたしを食べなさい」と言われます。

私はキリストを食べます。

いのちの言葉 10月

互いに愛し合うことのほかは、だれに対しても借りがあってはなりません。
人を愛する者は、律法を全うしているのです。

(ローマの信徒への手紙 13・8)

このみ言葉の前の節(*1)で聖パウロは、公の権威に対して私たちが果たすべき義務(従順や敬意、税金の支払いなど)について語り、愛ゆえに果たすよう教えています。それらは、果たさない場合には法律上の罰もあるので、理解しやすい義務と言えるでしょう。

さらにパウロは、理解するのが少し難しい義務についても語っています。イエスが残された教えに従って、私たちがあらゆる隣人に対して負っている義務、すなわち相互の愛です。これは、寛大さや思いやり、信頼や相互の尊敬、誠実さなどを通して表現される愛です。(*2)

互いに愛し合うことのほかは、だれに対しても借りがあってはなりません。
人を愛する者は、律法を全うしているのです。

このいのちの言葉は、二つのことを浮き彫りにしています。

第一に、愛が「借り」、すなわち負債として示されていることです。負債であるなら、私たちは無関心でいたり、後回しにしたりはできません。支払いを終えない限り、私たちの気持ちは落ち着かず、心も休まらないものです。

ですから相互愛とは、私が立派な人だから可能になる「オプション」ではなく、定められたきまりを守るようなものです。私たちは愛が相互のものになることを常にめざす必要があるのです。

今月のみ言葉は、実行することを私たちに強く求めるものです。実行しないなら、私たちは、世で愛の道具となるようイエスに招かれたキリスト者としての尊厳を失うことになるでしょう。

そして第二にみ言葉が示すのは、相互愛があらゆる掟の原動力、魂、目標であるということです。

もし私たちが神のみ旨をよく果たしたいなら、神の掟をただ機械的に守るのではなく、十分ではないでしょう。様々な掟の最終目的は相互愛であることを、私たちはいつも心にとめる必要があります。たとえば十戒の「第七のおきて」をよく生きるには、盗まないだけでなく、社会的不正がなくなるよう真剣に働く必要があるでしょう。そのようにしてのみ、私たちは隣人への愛を示すことができます。

互いに愛し合うことのほかは、だれに対しても借りがあってはなりません。
人を愛する者は、律法を全うしているのです。

では今月のみ言葉をどのように生きればよいでしょうか。み言葉が語る「隣人愛」には無数の意味合いが含まれますが、ここでは特に一つのことに注目してみましょ

う。

聖パウロが言うように、相互愛は私たちにとって負債であるとするなら、イエスがされたように私たちも自分から先に愛する必要があります。相手から期待したり、後回しにしたりせず、率先して愛することです。

今月はこのように生きてみましょう。私たちが出会う人、電話をかけたり、手紙を書いたりする相手、一緒に生活する人など、一人ひとりを自分から先に愛するよう努めてみましょう。私たちの愛が具体的で、理解に富むもの、先に一步を踏み出すもの、忍耐と信頼に満ち、根気強く、寛大なものでありますように。

このように生きる時、私たちの心は喜びで満たされるだけでなく、霊的生活の質が格段に向上することでしょう。

キアラ・ルービック

* 1 ローマの信徒への手紙 13・1-7

* 2 ローマの信徒への手紙 12・9-12

* 今月の言葉は1990年9月に発表されたものです。

★ いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

●お知らせ

いのちの言葉の集い

いのちの言葉の集い

関東 10月13日(日) 13:30~ 神奈川 カトリック藤沢教会 204号室

中部 10月6日(日) 14:00~ 愛知 瀬戸市本郷町東・喫茶室「游夢」

(週日に、吉祥寺、調布、鷺沼、藤沢、戸塚、厚木、千葉、浦和、鹿沼 奈良でも)

長崎 10月27日(日) 14:00~ 長崎 カトリック浦上教会 要理教室

* 詳細は各フォロー・センターまで。

連絡先

フォコラーレ: 03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail: tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ: フォコラーレで検索

<http://focolare.world.cocan.jp/>

ヘンリ・ナーウエンの 旅路の糧（169）



愛を拒否する自由

しばしば地獄は罰を受ける場所として、天国は報酬を受ける場所として思い描かれます。けれどもこの概念は、神いう存在を、たやすく、私たちが間違いを犯すと捕えようとし、その間違いが非常に大きければ刑務所に送ろうとする警察官として、あるいは私たちのすべての善い行いを数え上げ、年末にはストッキングの中にご褒美を入れてくれるサンタ・クロースとして捉えるように導きます。

けれども神は、警察官でもサンタ・クロースでもありません。神は、私たちがどれだけしばしば従ったか従わなかったかによって、私たちを天国に送ったり、地獄に送ったりするものではありません。神は愛であり、愛することしかできないのです。神の中には、憎しみや復讐しようとする欲望や私たちが罰せられているのを見て喜ぶことなどはありません。神は赦し、癒し、回復し、限りない愛を示し、私たちが家に戻るのを見ようと望んでいます。しかし、ちょうど放蕩息子の父親が彼に自分自身で決心させるように、神は私たちに、私たちを滅ぼす危険さえおかして、神の愛を拒否する自由をお与えになったのです。地獄とは、神の選択ではありません。それは、私たちの選択なのです。（1216）

愛を受け取ることができること

聖霊は、神が「アッパ、父よ」と呼べる私たちの父であるばかりでなく、私たちが愛する子供として神に属する者であることを、明らかにしてくれます。こうして聖霊は、私たちの内に神との関係を回復し、その関係から、他のすべての関係が意味を持つようにしてくれるのです。

「アッパ」は、とても親しみを込めた言葉です。最上の訳は、「おとうちゃん（おとうさん）」でしょう。「アッパ」という言葉は、信頼、安全、確信、所属、そして何よりも、親密さを表しています。それは、「父」という言葉がしばしば引き起こす権威、力、コントロールという意味ではありません。反対に、「アッパ」は、抱きしめ育む愛を意味しています。この愛は、私たちの父や母や兄弟や姉妹や伴侶や友人や恋人たちから来るすべての愛を含み、それらをみな無限に超えているのです。（0612）

（九里 彰訳）

跣足カルメル修道会HP (International)

世界的な跣足カルメル修道会のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com>



ORDEN
CARMELITAS DESCALZOS
• CURIA GENERAL DEL CARMELO TERESIANO •

<< Communications (時事通信) >>

第四回国際テレジア会議は5,000人以上の人々に伝えられました

2013年9月8日

第四回国際テレジア会議は9月2日から8日までアヴィラの国際テレジア・ヨハネセンタール (CITeS) で開催され、220人が現地の会議に参加し、インターネットでのオンライン聴衆者は5,000人に達しました。

この第四回会議は、イエスの聖テレジアの『靈魂の城』を中心に展開されました。過去の国際会議においては『自叙伝』、『完徳の道』、『創立史』に焦点が置かれました。慣例にそって会議には新しい展示の開幕式があり、今年は『靈魂の城』に光が当てられました。この展示では、この著作がどのように生み出されたか、その歴史や聖テレサの全著作における意義を見ることができます。

会議は、“聖テレサの『靈魂の城』と新しい福音化のチャレンジ”の表題で、トレドのブラウリオ・ロドリゲズ大司教により開始されました。続いて、跣足カルメル修道会のザベリオ・カニストラ総長が会議の開始にあたり歓迎挨拶を述べました。

全プログラムのガイドラインは、テレジアの著作にある偉大な霊的神秘的伝統を見きわめようとしながら、認識し、書物の実物（自筆原稿、筆跡）の観点からテキストに近づくこと、また歴史的霊的背景からテキストに近づくことを示しています。

今までの国際会議の伝統にない、会議はテキストの筆跡そのものから始められました。トマス・アルヴァレス神父は、セビリヤの女子跣足カルメル会修道院で完全な形で保存されている『靈魂の城』の自筆原稿に関して詳細に調べたものを準備し発表しました。

会議中、参加者達は、筆跡学者のホアン・ホセ・ヒメネス氏による筆跡の分析を通して聖テレジアをさらに良く知る機会を与えられました。イリア・ガラン教授からは『靈魂の城』の象徴学を学びました。サンチャゴ・グェッラ神父のガイダンスにより、聖女の歴史的霊性のダイナミックについて知りました。またセクンディノ・カストロ神父とともに『靈魂の城』における福音の存在を深く精査しました。さらに、ネイラ・タバラ氏の講演では、神秘主義とイスラム教神秘主義の関係を探究しました。そしてジョージ・タンバラ神父とともに、アフリカの現状をテレジアの神秘主義との関係において学びました。このように多くの人々が『靈魂の城』の多彩な内容の理解を深め、国際会議は閉会されました。

*****絵本のための小さなおはなし*****

「あざみのフレスコの絵のお話」

小さな村はずれに、幼なじみの麦とあざみが生えていました。二人は並んで、沈んで行く夕日を見つめていました。あざみの姿は、かっきり影になって、地面にうつっていました。麦は、もう金色で、手を伸ばして、あざみの頭に触りながらいいました。

「ぼくたち、二人とも、頭がつんつんしてるね」

「あたたしたち、似てるわよね」

夕日が金色に丸く光って、雲の上にじんわり座っているのを眺めて、麦は、またいいました。

「君、何になりたい？ぼくあそこの夕日みたいにご聖体になりたいなあ」

「あたし？あたしはそんな高い望みはないわ… あたしはここで、お日様の影をそのままの形で映すだけよ。あなたがご聖体になったら、あたしのこと、思い出してね」

ある日、麦は望みがかなってご聖体になりました。村の神父が高にかざすと、ご聖体になった麦はいつかの夕日のように金色に一瞬光りました。そして、麦はあざみのことをその瞬間思いました。あざみも、おなじ夕日の光にあたたかく包まれて、ふっとほほえみました。



カルメル会の企画案内



上野毛霊性センター ～ '14年3月

黙想企画 ** 聖テレジア修道院 (黙想) **

1. 木曜黙想会 (毎回木曜日10時～16時) 予約は3ヶ月前より受け付けします。

2013年度 年間テーマ 「信仰と宣教」

11月14日 「カルメルにおける宣教」 中川博道神父

12月5日 「神の愚かさ、宣教の愚かさ」 福田正範神父

2014年

2月20日 「復活の主の第一の使信」 福田正範神父

2. 金曜黙想会 (毎回金曜日10時～16時) 予約は3ヶ月前より受け付けします。

10月4日 「カルメルの霊性・ラウレンシオ修士」 古川利雅神父

2014年

1月24日 「カルメルの霊性・聖母マリア」 福田正範神父

3. 奉献生活者の為の黙想会

10月7日(月)18時～10月12日(土) 福田正範神父

12月27日(金)18時～2014年1月5日(日) 古川利雅神父

4. 青年黙想会(男女) 福田正範神父、カルメル会士

11月2日(土)15時～4日(月・振休)16時

5. 特別黙想会 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

11月8日(金)20時～10日(日)16時

6. 祭日のミサに参加するために

【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

2013年12月24日(火)～25日(水)《講話なし、夕食なし》

電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願いします。

またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いませんので、なるべく FAX・はがき・Eメールでお願い致します(お返事はいたしません)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25 聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355 / FAX 03-3704-1789 ※FAX 番号が変更されました。

E-mail: mokusou@carmel-monastery.jp

金曜黙想会

— ラウレンシオ修士 —

Frère Laurent de la Résurrection (1614-1691)

17世紀の30年戦争で負傷、回心の歩みを辿り、
26才でパリでカルメル会に入会。料理、靴作り、
托鉢などの仕事をしながら「神の現存」を体験し、
神との親しい沈黙の語らいの中に生きたカルムの
靈性に触れながら、ご一緒に過ごしましょう。



日時：2013年10月4日(金) 10時～16時

指導：古川利雅師(カルメル会 上野毛教会協力司祭)

場所：カルメル会 上野毛聖テレジア修道院(黙想)

会費：¥3,500— (昼食を含みます)

お申込みは・・・FAX、メール、ハガキにてお願いいたします。
(尚、お問い合わせは、お電話でも承ります。)

158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25
カルメル会 上野毛聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355 FAX 03-3704-1789
Eメール mokusou@carmel-monastery.jp





カルメル青年黙想会

私は主を見ました —イエスの福音を伝える—

信仰年がもう少しで終わります。この信仰年、教会はシノドス「新しい福音宣教」を始めに、回勅「信仰の光」の発布、そして7月に開催されたワールドユースデーにて教皇様は、「行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい」(マタイ28:19)をテーマに宣教を強調されました。

信仰年の終わりにあたり、今まで見つめてきた信仰・希望・愛、カテキズム、公会議の精神などの基本事項を踏まえた上で、宣教について見つめたいと思います。



- 日時 : 11月2日(土) 15時 ~ 4日(月) 16時
 場所 : カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)
 対象 : 高校生以上の青年男女(35歳まで)
 定員 : 20名
 費用 : 一般 10,000円 学生 7,000円
 締切 : 10月26日(土) <必着>
 指導 : 福田正範神父・カルメル会士

※住所・氏名・性別・年齢・電話番号・所属教会名を記入し、ハガキ・FAX・E-mailの何れかで下記まで。折り返し、こちらよりご連絡させていただきます。



158-0093 世田谷区上野毛2-14-25
 カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)
 電話 : 03(5706)7355
 FAX : 03(3704)1789
 E-mail : mokusou@carmel-monastery.jp



特別黙想会 <わたしは神をみたい>

2013年11月8日（金）20時～10日（日）15時

信じる者になってください

「信仰年」を終えるにあたり、

日々の生活のなかで復活されたキリストと出会うために

しばらく神のみ前に 静かなひとときを過ごしてみませんか？

神は いつも

あなたの心の深みにおいでになります。

その存在を 感じるができないときでも
そこで 主はあなたを待ち

「素晴らしい交わり」を
もつことを望んでおられます。

～ 三位一体のエリザベット～



- 指 導： 伊従 信子 （ノートルダム・ド・ヴィ会員）
- 持参品： お持ちの方は『いのちの泉へ』、『神は私のうちに、私は神のうちに』
『光、愛、命へ』三位一体のエリザベット最後のことば（ドン・ボスコ社）
- 参加費： ￥12000
- 場 所： カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）
158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25 Tel 03-5706-7355
- お申込み： F A X：03-3704-1789 Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp
または、ハガキにてお申込み下さい。



講座のご案内

■場所： カトリック上野毛教会（信徒会館ホール）

■担当： 中川博道（カルメル修道会）

■どなたでもいつからでもご参加ください



カルメルの靈性に親しむ

いずれも 金曜日

朝のクラス ≪10:30~12:00≫ 夜のクラス ≪19:15~20:45≫

10月18日
11月15日
12月13日
2014年 2月14日
3月7日

生ける神との出会いを探して

— 靈性神学入門講座 / キリスト教入門講座 —

いずれも 金曜日

朝のクラス ≪10:30~12:00≫ 夜のクラス ≪19:30~21:00≫

11	10月11日	「イエス・キリストの自己理解」
12	10月25日	「キリストに近づく」
13	11月8日	「教会：キリストに呼び集められた人々の集まり」(1)
14	11月22日	「教会：キリストに呼び集められた人々の集まり」(2)
15	12月6日	「キリストと共に歩む道」(1)
16	12月20日	「キリストと共に歩む道」(2)
17	2014年 1月10日	「キリストと共に歩む道」(3)
18	1月24日	「主の祈り」

お問合せ: carmel-reisei@hotmail.co.jp

2013年 黙想会案内 (宇治カルメル会)

【一般のための黙想】 1泊2日 (午後5時～午後4時)

11月2日(土)～3日(日) 信仰と行い 九里彰神父

【聖書深読黙想会】

- 1日黙想 (午前10時～午後4時)

11月30日(土) 九里彰神父

- 水曜の黙想 (午前10時～午後4時)

10月16日(水) アビラの聖テレジアとイエス 今泉健神父

11月13日(水) キリスト教神秘を祝うカテキズム 松田浩一神父

12月18日(水) クリスマスを迎える心 今泉健神父

- 待降節の黙想 (午後5時～午後4時)

12月14日(土)～12月15日(日) 松田浩一神父

人間となった神の子への信仰

- 聖テレゼの黙想 (午後5時～午後4時)

9月30日(月)～10月1日(火) 伊従信子師

カルメル青年黙想会 (午後5時～午後4時)

11月9日(土)～11月10日(日) キリストはあなたを呼んでいる 今泉健神父

【一般のためのカルメルの霊性入門】

10月26日(土)～10月27日(日) (午後5時～午後4時) 松田浩一神父

「テレサ的カルメルの霊性 No.1」

奉献生活者の黙想 (午後5時～午前9時)

12月27日(金)～1月5日(日) 松田浩一神父

祭日のミサに参加するために

【クリスマス】 チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11時

12月24日(火)～12月25日(水) [講話なし、各食事つき]

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。—

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールで お名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間にお願いいたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

Tel 0774-32-7016, Fax 0774-32-7457

E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

一般のためのカルメルの霊性入門

場所 : カルメル会聖テレジア修道院<黙想> (京都)

日時 : 10月26日(土) PM5:00~

10月27日(日) PM4:00まで

テーマ : 「テレサ的カルメルの霊性 No.1」

参加者 : カルメル会の霊性に興味のある人

持参 : 『カトリック教会のカテキズム』

筆記用具、宿泊に必要な物。

<必要なプリントを配布します。>

費用 : 6,000円(日帰り 3,000円)

指導 : 松田浩一 神父(カルメル会士)

* 宿泊できない方は、10月27日(日)のみ参加もできます。

男子跣足カルメル修道会 宇治修道院へのお問い合わせ

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

男子跣足カルメル修道会宇治修道院

TEL 0774-32-7456

FAX 0774-32-7457



teresiauji@mountain.ocn.ne.jp



『社会人(働いている人)のための霊的同伴』

— 一日常のキリスト教霊性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、**霊的同伴(スピリチュアル・コーチング)**を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

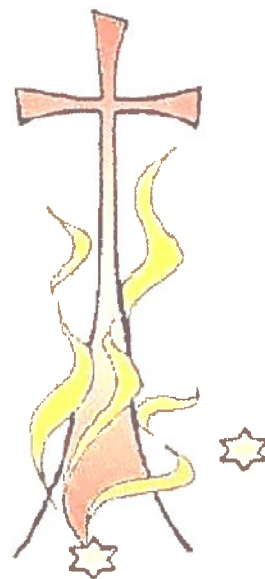
【内容】

- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(霊的理解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴(一人30分)を行います。
- メソッドの一つとしてスピリチュアル・コーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行為されるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

【参加者人数】 6人

【開催日】

- | | | |
|---|-------|-------------------|
| ① | 2013年 | 1月25日(金)～26日(土) |
| ② | | 2月8日(金)～9日(土) |
| ③ | | 3月8日(金)～9日(土) |
| ④ | | 4月12日(金)～13日(土) |
| ⑤ | | 7月12日(金)～13日(土) |
| ⑥ | | 9月6日(金)～7日(土) |
| ⑦ | | 10月11日(金)～12日(土) |
| ⑧ | | 11月22日(金)～23日(土) |
| ⑨ | | 12月6日(金)～7日(土) |
| ⑩ | 2014年 | 1月24日(金)～25日(土) |
| ⑪ | | 2月21日(金)～22日(土) ☆ |
| ⑫ | | 3月28日(金)～29日(土) |
- (毎回金曜日 20時(夕食なし)～土曜日 15時)



【参加費】 各回 5,500円

【霊的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へ FAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12
 カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)
 Tel 0774-32-7016、Fax 0774-32-7457
 E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

「立ちどまって、ひとりになって、聴いてみよう！」

…～都会の中の一泊静修～（2013）…

(テーマ) 信仰年の課題 「イエス・キリストのセンスを磨く」 …2000年の時を貫いてきた教会の信仰…

「『信仰の門』（使徒言行録 14・27）は常にわたしたちに開かれています。それはわたしたちを神との交わりの生活へと促し、神の教会へと導き入れてくれます。神のことばがのべ伝えられ、わたしたちを造り変える恵みによって心が形づくられるとき、わたしたちはこの門を通ることができます。この門に入るとは、生涯にわたって続く旅に出発することです。

信仰は、それを愛が与えられる経験として生き、恵みと喜びの経験として伝えられることによって、成長します。信仰はわたしたちを豊かにします。」（「信仰の門」より）

今年の信仰年は、わたしたちを「キリストのように考え、キリストのように話し、キリストのように行い、キリストのように愛する」ことへと招いています。この呼びかけに従って生きることは、わたしたちの中にキリストのセンスを磨いていきます。

「一泊静修」が、信仰のうちにキリストを生き抜いた先達たちの生き方に学ぶ一助となりますように。

回	月 日	テーマ	
第1回	1月14日(月)	信仰年を生きる「信仰の門」を巡って —イエスご自身の信仰—	中川博道神父(上野毛修道院)
第2回	2月23日(土)	マリアの信仰	Sr.パウリン(宣教カルメル修院)
第3回	3月23日(土)	テレーズの信仰	三上和久神父(三馬修道院)
第4回	4月13日(土)	使徒たちの信仰	今泉健神父(宇治修道院)
第5回	5月11日(土)	初代教会の信仰	松田浩一神父(宇治修道院)
第6回	6月22日(土)	殉教者の信仰	九里彰神父(本部修道院)
第7回	7月13日(土)	イエスの聖テレサの信仰	古川利雅神父(上野毛修道院)
第8回	9月7日(土)	聖家族の信仰 家庭・職場・地域で信仰を生きる	伊従信子師(ノートルダム・ド・ヴィ)
第9回	11月23日(土・祝)	十字架の聖ヨハネの信仰	福田正範神父(上野毛修道院)

- * 時間 AM10:00～PM4:00
- * 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分) *聖テレジア幼稚園隣接
- * 参加費 1,000円
- * 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当
- * 定員 約30名
- * プログラム
 - 10:00～ 祈り・導入・黙想
 - 10:30～ 講話(1)
 - 黙想・赦しの秘跡または面接
 - 11:50～ 昼の祈り・お告げの祈り
 - 12:15～ 昼食
 - 12:50～ 黙想・赦しの秘跡または面接
 - 13:30～ 講話(2)
 - 14:45～ ミサ
 - 15:30～ 茶話会・分かち合い
 - 16:00～ 終了予定

☞ 申し込みは、下記の住所へハガキか FAX で、氏名・住所・TEL、(所属教会)を記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

☆ 名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17 カルメル会日比野修道院

FAX 052-671-1825

一泊静修連絡係 〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115 小林 厚・晃子

TEL・FAX 052-701-3685

2013年度名古屋聖書深読会

第1回 10月26日(土)

九里彰神父(本部修道院)

- 時間 午前10時～午後4時
- 場所 カトリック日比野教会
地下鉄名城線日比野下車、徒歩約5分 *聖テレジア幼稚園隣接
- 参加費 ￥1000
- 持ち物 聖書・筆記用具・ノート・昼食等

* 事前に「名古屋教区ニュース」でお知らせします。

* 申し込みは、開催日の3日前までに Fax またはハガキで下記へお願いします。信徒の方は、所属教会名もご記載下さい。

* 対象は、信徒、未信徒の別を問いません。キリストの教え(み言葉)に関心のある方なら、どなたでも構いません。

☎ 申し込み先

名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17

カルメル会日比野修道院

FAX 052-671-1825

☆ 連絡係

〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115

小林 厚・晃子

TEL/FAX 052-701-3685

☆霊性センター

カルメルの霊性「祈り」を知るために。

どなたでも気軽にご参加下さい

毎月第一日曜日 三馬教会 聖堂

14:30～講話（カルメル会司祭）

15:30～ミサ（賛歌ラテン語）

☆土曜フレックスタイム静修

御自分の都合に合わせて好きな時間に参加でき、

霊的にだけではなく、心身共にリフレッシュ出来る時

間として 御利用下さい。

毎月第三土曜日 三馬教会 聖堂

13:30～聖書朗読、短い講和

14:30～ベネディクション、聖体顕示

15:30～聖体拝領

16:00～サルヴェレジナ、終了

各合間の時間は、各自自由に黙想しながら祈る時間です

カルメル会三馬修道院 三上和久神父



カルメル霊性センター

〒921-8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父迄

Tel. 076-244-7788

聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 18,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 16,900円

講師：九里彰師（奇数月） 今泉健師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

2 ミニ深読

グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

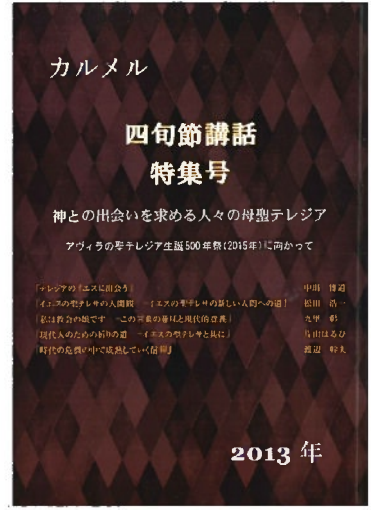
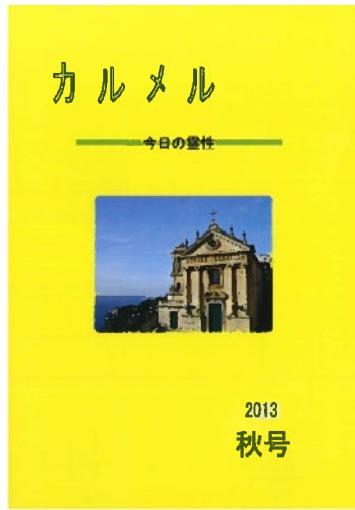
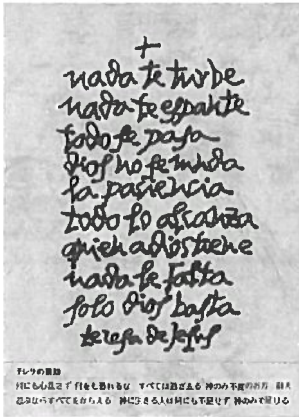
〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：今泉健神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

「カルメル」
今日の霊性・秋号
四旬節講話特集号



カルメル 2013 特集号

2013 秋 No.350

「神との出会いを求める人々の母 聖テレジア」

砂漠の修道院に入る (6)	私は生まれなかったかもしれない	西行と芭蕉の霊性 (1) ——奥を尋ねる	修道院生活 春夏秋冬 (9)	人を育む霊性 ——エディット・シュタインの教育論 (2)	「お鍋の中にも主はおられます」 ——日常を生きる	生活のなかのカルメル	修道院の窓から ——一期一会	信仰を生きる (3) ——アピラの聖テレジアの信仰理解	● 目次 ●	● 今年の特集 イエスの聖テレジアと信仰 ●	現代人のための祈りの道 ——イエスの聖テレサと共に	「私は教会の娘です」 ——この言葉の意味と現代的意義	イエスの聖テレサの人間観 ——イエスの聖テレサの新しい人間への道	● 目次 ●	テレジアのイエスに出会う
奥村一郎 52	森みさ 46	山畑邦治 38	高橋重幸 32	須沢かおり 26	中山真理 20		原造 17	伊從信子 9			片山はるひ 37	九里彰 24	松田浩一 12		中川博道 2
											渡辺幹夫 51				

購読のご案内

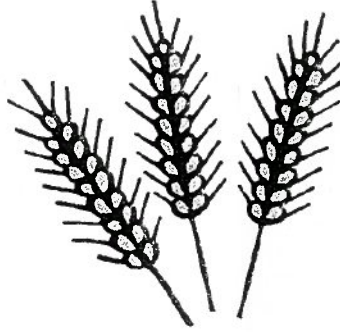
雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。(カトリック書店：サンパウロ、ドンボスコ書店等) 定価は、一冊460円です。

- 送付ご希望の方は、600円【内訳 460円 (+送料140円)】を下記へお振込み下さい。
- まとめてご購入希望の方は、年会費(年5冊：春夏秋冬号・特集号【460円×5=2,300円】+送料【700円】計3,000円)を下記へお振込み下さい。

郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会
お問い合わせは、事務担当竹田まで。

TEL (03) 5706-8356

諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター
真命山 霊性交流センター
リーゼンフーバー神父キリスト教講座
ノートルダム・ド・ヴィ
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
サダナ瞑想
CWC (キリスト者婦人の集い)
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご紹介下さい。
よろしくお願い致します。



諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは10日前迄に完了、お願いします。会場予約準備がありますので。

◎572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり 内観瞑想センター」藤原神父
FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送ります。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

2013年予定

- K 5 10/12 (土) -10/18 (金) 東京・小金井・聖霊会
T 2 10/28 (月) -11/3 (日) 兵庫西宮・女子トラピスチヌ
N 4 11/25 (月) -12/1 (日) 滋賀唐崎・ノートルダム

2014年予定

- K1 1/25 (土) -1/31 (金) 東京・小金井・聖霊会
M1 2/9 (日) -2/15 (金) 宝塚売布・女子ご受難会
N1 2/24 (月) -3/2 (日) 滋賀唐崎・ノートルダム
K2 3/22 (土) -3/28 (金) 東京・小金井・聖霊会
S1 3/30 (日) -4/5 (土) 千葉白子・十字架 イエスベネディクト会
N2 4/30 (水) -5/6 (火) 滋賀唐崎・ノートルダム
K3 6/14 (土) -6/20 (金) 東京・小金井・聖霊会
T1 7/25 (金) -7/31 (木) 兵庫西宮・女子トラピスチヌ
M2 9/9 (火) -9/15 (月) 宝塚売布・女子ご受難会

イエス様に祈りを学ぶ

真命山の靈性



祈りの集い（午前10時～午後3時）

年間の一般のテーマ： イエス様に祈りを学ぶ

自然

神はすべてを作り
人の手に委ねられた

陽の昇るところから
陽の沈むところまで

祈り

静けさ

沈黙の中に神の
言葉を聞こう

信仰体験を
分かち

交わり

- 1月10日 ナザレの聖家族の生活における祈りの重要性
- 2月14日 イエスの生涯における祈り
- 3月14日 死を前にしたイエスの祈り
- 4月11日 最後の晩餐におけるイエスの祈り
- 5月9日 イエス・キリストのメシアとしての喜びの賛歌
- 6月13日 いやしの奇跡とかかわるイエスの祈り
- 7月11日 主よ、私たちに祈りを教えてください！
- 8月 休み
- 9月12日 イエスの「大祭司の祈り」（ヨハネ17）
- 10月10日 神との関係における沈黙の大切さ
- 11月14日 イエスと神殿（ルカ2,46 ヨハネ2,21）
- 12月12日 神の「幕屋」であるイエス（ヨハネ1,14）

指導者

フランコ・ソットコルノラ神父
（真命山院長）

ダニエレ サルティ・サルトリ
神父

Sr.マリア デ・ジョウルジ

申し込み先

865-0133

熊本県玉名郡和水町1391-7

真命山諸宗教対話・靈性交流センター

TEL 0968-85-3100

Fax 0968-85-3186

E-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

www.shinmeizan.org

個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。
（要予約）

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。

●土曜アカデミー 以下の土曜日、
9時30分～12時15分、岐部ホール4階404、
各時代の文書を読んで、思想史一般とキリスト教哲学・神学の相互関係を考察します。キリスト教思想史に関心を持っている方、プログラム等に関してはHP(文末)を見て下さい。

2013年度のテーマ:

超越理解と理性の自己発見 — I 古代と中世
「中世：哲学・神学・神秘思想」(9世紀～15世紀)
[初期スコラ学]
10/12,10/19,10/26,11/09
[盛期スコラ学]
11/30,12/07,12/21,01/11

●ミサ

水曜日 17時10分～18時 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月全体、12月25日は休み。

●黙想

・「会社帰りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日、8月13日は休み。8月27日はクルトゥルハイム聖堂
・「お昼の黙想」毎月第1・第3火曜日 10時40分～12時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日は休み。
・水曜日 18時～18時30分 上智大学内クルトゥルハイム1階右、テレジア小聖堂
どなたでも。但し祝日、8月全体、12月25日は休み
・「通う霊操」8月24日(土)～9月1日(日)18時～20時45分 上智大学内クルトゥルハイム聖堂

●祈りの集い

・下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内S.J.ハウス、第5会議室
講話、黙想、ミサがあります。
9月7日、10月12日、11月9日、12月7日
2014年1月11日、2月8日、3月1日
・ロザリオの祈り(同日、ミサに続いて)16時10分～16時50分 上智大学内クルトゥルハイム1階右、小聖堂

●黙想会

[関東] 1泊6,600/6,800円程度。
09月28日(土):10時～29日(日)14時(東村山)
11月16日(土):10時～17日(日)14時(上石神井)
2014年
03月08日(土):10時～9日(日)14時(上石神井)
[関西]
10月5日(土)13時30分～6日(日)15時(宝塚)

●坐禅会

・月曜日 17時20分～20時10分
・木曜日 18時～20時30分
上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋。但し祝日、5月2日、8月全体、12月26日、30日、1月2日は休み
3回坐り、間に講話

●坐禅接心

[秋川神冥窟] 1泊2400円(+暖房費)程度。
9月20日(金)20時30分～24日(火)10時
11月1日(金)20時30分～11月4日(月)13時

●アガペ会

下記の日に説明会(13時30分)と集い、ミサ(14時～18時)。上智大学内S.J.ハウス、第5会議室
10月20日(日)、2014年1月25日(土)

●クリスマス

クリスマス会
12月14日(土)16時～20時30分。岐部ホール4階、404(予定)。要申し込み。

クリスマスのミサ

12月23日(月)14時～上智大学内クルトゥルハイム聖堂(80人限定)。

リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

リーゼンフーバー神父キリスト教
入門講座 2013年
日時 毎週金曜日
18時45分～20時30分

10/4 洗礼と堅信— イエスに結ばれて生きる
10/11 教会の成立と意味— イエスを中心に集う
10/18 人間としてのイエス— 新しい人間像の基礎づけ
10/25 御子としてのイエス— イエスの神との関係

11/01 父と子と聖霊— 神の生命に与る
11/08 信仰の決断— 支えられて生きる
11/15 ミサ祭儀— 神への奉仕と生活の糧
11/16-17 ●黙想会(上石神井)
11/22 自己実現と神の意志— 生き方の規範
11/29 人間の弱さ— 罪とは何か
12/06 恵みとゆるし— 神の憐れみを受ける
12/13 愛の心— キリスト教の本質
12/14 ◆クリスマス・パーティ(16時ミサ、17時30分パーティ、岐部ホール4階404。要申し込み)
12/20 隣人愛— 他人の内にイエスに出会う
12/23 ◆クリスマスのみサ(14時、上智大学内クルトウルハイム2階、80人限定)
12/27,1/3○休み

リーゼンフーバー神父キリスト教
理解講座 2013年
日時 第1・3・5火曜日
18時45分～20時30分

[根本的態度]
10/01 基本的な徳— 判断力・勇気・節制
10/15 共同存在— 共通善・正義・奉仕
10/29 個人の道— 自己の課題と聖霊の導き

[日常生活]
11/05 対人関係と友愛— 恵みである他者
11/16-17 ●黙想会(上石神井)
11/19 身体と生命— 性と倫理
12/03 家庭と独身生活— 与えられた招きの発見
12/14 ◆クリスマス・パーティ(16時ミサ、17時30分パーティ、岐部ホール4F、要申し込み)
12/17 仕事と祝い— 能力の活性化と人生の実り
12/23 ◆クリスマスのみサ(14時、上智大学内クルトウルハイム2F、80人限定)
01/07 困難と苦しみ— 謙遜な自己奉獻と神への信頼

[信仰の実現]
1/21 教会生活とミサ— 「キリストの体」の神秘
2/04 秘跡の恵み— たえざる刷新と神のいのちの深まり

《場所・お問い合わせ》
聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)
信徒会館3階
アルペホール TEL 03・3263・4584

クラス・リーゼンフーバー神父
〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1
上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124(直通) -5111(伝言)
Fax 03-3238-5056



いのちの泉へ（ノートルダム・ド・ヴィ）

- 「いのちの泉へ」
すべての人のための祈りの集い

カルメルの靈性に学びつつ、キリスト者としての靈性を養うための講話と、沈黙の祈りで構成された集いです。カルメルの靈性を、より深めたい方のグループと、若い方、基礎的な信仰を学びたい方のグループがあります

2013年
10月12日(土) アヴィラの聖テレサ

講話 伊従 信子
午後2時～午後5時30分位まで、
講話、祈り、分かち合い。
参加費 200円

申し込み・お問い合わせ
ノートルダム・ド・ヴィ
〒177-0044
練馬区上石神井4-3
2-35

TEL(03)・3594・2247
FAX(03)・3594・2254
E-mail notredamedevic.japan@gmail.com
ホームページ
<http://www.ndv-jp.org/>



カルメル会の靈性を受け継ぐノートルダム・ド・ヴィ(いのちの聖母会)は、現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

- ◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1
Tel：077-579-7580 Fax：077-579-3804
Eメール： karainorind92@mbe.nifty.com
- ◎ 交通： JR京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。琵琶湖の方へ徒歩 約13分
- ◎ 日程：
 - A. 8日間の個人指導による黙想
初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。
 - ③ 9月27日(金)～10月5日(土)
 - ④ 12月27日(金)～2014年1月4日(土)
 - B. 祈りの体験：週末3日間 (金曜日の夕食～日曜日の昼食)
【神との親しさの中で日常を生きるために】
 - ⑤ 7月12日(金)～14日(日)
 - ⑥ 11月1日(金)～3日(日) ⑦ 11月29日(金)～12月1日(日)
- ◎ 対象： 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。
- ◎ 靈的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他
- ◎ 申込み： 1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて
郵送、または、Faxで「黙想係」松本佳子 へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。
いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。 先着順11名です。
- ◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なされたい方はご相談ください。(但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。)

主に選ばれる恵み
ここを離れず
私と共に目を覚ましていなさい

2013年第三回 召命黙想会

日時： **11月9日(土) 15:00～**

10日(日) 15:30まで

場所： ノートルダム唐崎修道院
(JR京都駅から30分)

指導： 山内 十束 神父 (御受難会)

対象： 独身女性信徒

費用： 2,000円

締切： 2013年 11月 3日 (日)

＜申込み・問合せ＞

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

ノートルダム教育修道女会

Sr. 桂川

Tel 077-579-2884 Fax 077-579-3804

Email karainorind92@mbe.nifty.com

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

★申込み受付・・開始日の8日前で締切ります

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。 URL : <http://sadhana.jesuits.or.jp/>

コース	日時<指導者>	指導者	開催場所	申込み
入門A	10/6(日) 9:30-17:00	Fr植栗	援助修道会リヒト宣教室 (市ヶ谷)	若山美知子※ TEL/fax 03-5802-3844
サダナII	10/10(木)17:30- 10/14(月)16:00	Fr ラフオート	女子御受難会修道院 (宝塚市)	大倉本子
サダナI	10/11(金)17:30- 10/14(月)昼食	Fr植栗	熊本・真命山(玉名郡和水町) 申込み:壽賀佳子 Tel:099-282-2289 携帯:080-6400-0610	
サダナI	10/31(金)17:30- 11/3(日)14:00	Fr ラフオート	三位一体聖体宣教女会 東京修道院(東村山市)	若山美知子※
入門B	11/10(日) 9:30-17:00	Fr植栗	上石神井黙想の家	上石神井黙想の家
日帰り	11/17(日) 9:30-17:00	Fr植栗	援助修道会リヒト宣教室 (市ヶ谷)	若山美知子※
自己を知る *1泊2日 ×2= 合計4泊	2014年 1/11(土)9:30- 1/12(日)17:00 1/18(土)9:30- 1/19(日)17:00	Fr植栗	小金井聖霊修道院	若山美知子※
入門C	2/2(日) 9:30-17:00	Fr植栗	援助修道会リヒト宣教室 (市ヶ谷)	若山美知子※
サダナI	2/8(金)17:30- 2/11(火)16:00	Fr植栗	三位一体聖体宣教女会 東京修道院(東村山市)	若山美知子※

※不在の場合は、渡辺由子

Tel & Fax : 042-325-7554

(注) 日帰り＝サダナIを終えた方

*サダナI＝体の営みと想像とを生かして祈りを深め、「神との出会い」と「心の解放」をめざす。

*サダナII＝Iをいっそう深める。身体・感情・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される。



CWC (キリスト者婦人の集い)

カルメルの霊性に学ぶ

『完徳の道』

場所：真生会館 10:30～12:00

11月12日（火）『完徳の道』第38～第39章

12月12日（木）



東京都新宿区信濃町33番地4 真生会館ビル

TEL：03-3351-7121（受付代表）

<http://www.catholic-shinseikaikan.or.jp/>

九里彰神父（カルメル会日本管区長）

慈しみ深き会

祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて

—観想の祈りへの道—

場所：イグナチオ教会岐部ホール 14:00～16:00

12月のみマリア聖堂（ミサ有り）

11月13日（水）『靈魂の城』第5の住居の第4章

12月11日

アピラの聖テレジアの「靈魂の城」を読んだ後、一緒に沈黙で祈ります

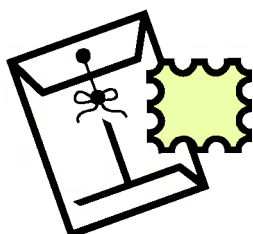
*参加費無料（献金歓迎）

*問い合わせ先：042-473-6287 篠原

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

霊性センターニュース

* 年間購読(郵送)のご案内 *



来年(2014年)1月から12月までの『霊性センターニュース』
年間購読(郵送)のお申し込みを受け付けいたします。

年間購読の場合の献金は、2500円程度をお願い致します。
これには11回分の送料(8月休刊)が含まれます。

ご郵送は、基本的に申し込み翌月から12月までとなります。
例：6月申込の場合は、7月号～12月号(但し8月号休刊を除きます)
この場合の献金については、ご希望の月数×250円程度となります。

申込先：下記の霊性センターニュース事務局へ、
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax等をご記入の上、
郵送か下記のe-mailでお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25
カルメル会上野毛修道院 「霊性センター事務局」

《e-mailでのお申し込み》

tokyo@carmel-monastery.jp

献金振込先：霊性センターニュースの最終ページをご参照下さい

* 何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。

Tel: 03-3704-2171

Fax: 03-3704-1789

『霊性センターニュース』お持ち帰りの方へ

一冊 100 円程度の献金をお願い致します！

「霊性センターへの献金」のお願い

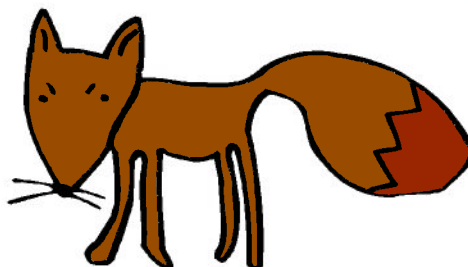
「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル霊性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。



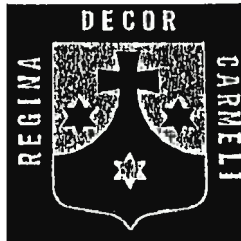
編集後記

先月、北海道の十勝女子カルメルに、しばらく滞在した。猛暑の名古屋から涼しい十勝へ。出発の前日、天気予報を見たら、名古屋の最低気温より、十勝の最高気温の方が一度低かった。滞在期間中は雨が多く、涼しさを通り越し、寒いくらいであったが、修道服は長袖。これに救われた。

着いた日の翌日、朝食後、敷地内を散歩していると、道路脇に食べつくされたとうもろこしが一本、ころがっていた。作業に来た人が食べて捨てていったのか、マナーの悪い人がいるもんだなと思ったが、シスターに聞くと、何とキタキツネのしわざだとのこと。次の日には、二本もころがっていた。とうもろこしだけでなく、皮も散乱しており、今度は、明らかにキタキツネのしわざと分かった。

シスターの話では、今修道院が建っているあたりは、元、キタキツネのねぐらだったとのこと。居住地を追われたインディアンのごとく、キタキツネは、その土地は、本来、自分たちのものであることを、とうもろこしで主張していたのだろうか。とはいえ、シスターたちはキツネにばかされることもなく、彼らと平和共存しているようである。

(P.九里)



.....製本／発送のご協力お願い.....

「霊性センターニュース」の製本／発送は、基本的に[毎月最終週の火曜日](#)に行われます。作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「11月号」製本日

[10月29日\(火\)](#) 上野毛教会信徒会館ホール 1階

午後1時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171